令和５年度研究成果と課題

１　研究構想

学習指導要領では、児童生徒に「生きる力」を育むことを基本の考え方としています。「生きる力」を育むために目指すのは、何ができるようになるか（＝育成すべき資質・能力の三つの柱）であり、我々指導者は、児童生徒の学び方に着目して、児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」をしているか（＝どのように学ぶか）という視点から授業改善を図ることが大切です。

さて、本校は学校教育目標を「いどむ　つながる　かがやく」と定めています。これは、京都府教育振興プラン基本理念にある育みたい力、「主体的に学び考える力」「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」ともリンクしています。

また、小学部では「学びとつながりを積み上げ、やってみたいを育てる」、中学部では、「学びとつながりを広げ、だれとでもできる」を育てる」、高等部では、「学びとつながりを生かし、地域社会でできる」を育てる」を目標に掲げ、小、中、高で、基礎・意欲、発展・可能性、統合・個性と、系統性も意識した指導にあたることも目標にしています。

「いどむ　つながる　かがやく」の「いどむ」は、学校教育目標、また第２期京都府教育振興プランにあるように、自分で考え、判断し、主体的に行動できる姿のことです。この「自分で考え、判断」するために必要な力は何か。それは、「思考力」ではないかと研究部では考えました。

つまり、思考力を育むことで、自分で考え、判断し、主体的に行動できる、つまり、学校教育目標にある「いどむ」力を育むことにつながるのではないかと考えました。

そこで、令和５年度は、思考力の育成～「主体的・対話的で深い学び」「ICT の効果的な活用」の視点から～、そして、他学部の授業参観～12 年間の意識～を研究主題として設定しました。

２　実践報告

学部・学級・授業	目標	児童生徒の姿
小学部 知的障害・肢体不自由学級 【自立活動】	各コーナーにある運動器具を、どうすれば進んだりよじ登ったりすることができるか考えて進むことができる。	揺れる台や鬼退治など、児童が「どのような動きをしたらよいか」と自然に考えられるような設定になっていた。児童たちは左右に倒れないようバランスを取ったり、片手で鬼を倒したりと、自分から積極的に活動に向かう様子が見られた。
小学部 知的障害 【自立活動】	スライドを使って、友達に自分の好きな物について発表することができる。	ロイロノートを使い自分の好きな物を紹介する場面では、自分の気持ちを表現して入力したり、テーマに沿った絵を描いたりと、一人一人が自分のことについて考えながら取り組んでいた。
中学部 知的障害 【美術】	学んだ混色を参考にしたり、友達がする混色を見たりして、どの色を混ぜるか考えることができる。	友達が色水を選ぶ様子を見て、指定された色になるように、生徒同士が一緒に考えたりアドバイスしたりしていた。 タブレット端末のアプリで虹を描くときに、自分の好きな色を選択し、オリジナルの虹を描くことができていた。思いと違ったらやり直すなど、トライ＆エラーを経験できていた。
中学部 知的障害 【自立活動】	友達と協力して活動することができる。	ボール転がしリレーを繰り返し取り組む中で、自分の順番が終わったら自分はどうするべきなのかを考え、列の一番後ろに並び替え、ゴールを目指すことができるようになってきた。 友達の問いかけに応じたり、指示を聞いて受け入れたりする姿も見られた。
高等部 知的障害 【保健体育】	立ち幅跳びで遠くに跳ぶために、大きく腕を振って勢いをつけようとすることができる。	「どうしたらよく跳べる？」という指導者の問いかけで、生徒たちが考える場面を設定できており、「腕を振る」「前へ跳ぶ」ことが意識できていた。 タブレット端末を使って記録し、瞬時にグラフ化されていたので、とても分かりやすく、生徒のモチベーションも引き出せていた。
高等部 知的障害 肢体不自由 【生活単元学習】	写真を撮る角度や構図を工夫することができる。	撮りたいものが分かりやすく撮れている写真を選択する活動では、ロイロノートのアンケート機能を活用することで、２つの写真から良いと思った方の写真を選択していた。また、その写真を選んだ理由を生徒なりの言葉で答えることができていた。 写真を撮るときに撮るポイントを意識して撮っていた。また、製品を立てて撮ってみたり、コップの代わりにトイレットペーパーをコースターに乗せて撮ってみたりするなど、工夫して撮影することができていた。

３　まとめ

①成果

研究を進めていく中で、「子どもたちがどう考えるか」を視点に検討を進めました。それにより、子どもたちの目線に立って考えることができ、「子どもたちがこう考えるはず。」「子どもたちはこんな思いをもつのでは。」などと想定をして、授業実践をすることができました。この視点で考えることで、「思考力」を育む授業づくりに繋がったのではないか、そして、「思考力」を育めたことで、子どもたちの「いどむ」姿を引き出すことができたのではないか、と研究部では考えています。

②課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが５類感染症となったことから、指導者の他学部参観を行いました。参観者からは「他学部の実践を知ることができた。」「小学部での学びが自学部（中学部）につながっていると改めて感じた。その学びをつなげていきたい。」等の意見が挙がりました。

一方で、「学部間の学びのつながりは、現状ではまだまだ不十分。」「他学部のことを知るためにも参観する機会をもっと増やしてほしい。」「学部間の連携を図るために、自学部だけでなく他学部の先生とも話し合う場が欲しい。」等の意見も上がりました。

課題を受け、年度末に行った全校研究会では、学びのつながりについて考える機会をもち、意見にも挙がっていた「卒業後を見据えた指導」について、全指導者で検討しました。「卒業後を見据えて取り組んでいることは？」と、まず自分自身で考え、それを学級内で交流しました。その際には、「キャリア教育における基礎的・汎用的能力＊1」の視点を踏まえて話合い、どういう力が必要となってくるかを整理していきました。今回は自分自身の思いや考えを学級で交流しましたが、今後は学級を越えて学部内で、そして他学部の指導者と意見交流をして、学校として学びのつながりをどう作り上げていくかが課題となってきます。

＊１：「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」

：中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」平成 23 年１月 31 日

③今後の方向性

今後は、より学部間での学びのつながりを明確にするために、学部を越えて指導者が集まり、12 年間の系統性について話し合ったり共有したりしていくこと、また、学部を越えた参観をより活発にし、同段階の学習を共有していくことを研究の柱として考えています。子どもたちとともに、私たち指導者も学び続け、本校の教育活動を充実・発展させていきます。